

令和3年度第4回人権教育学級

日 時： 9月9日（木）10：00～11：30

場 所： 別府市役所5F大会議室

テーマ： 「外国人と人権」

— 壁 —

～ 台湾人から見た日本～

講 師： 別府大学 学生

趙 佳琳 さん

趙 佳琳さんのプロフィール

- ・日本語教師を目指す別府大学の台湾人留学生
- ・中学校から日本語に興味を持ち、5年制の語学専門高校にて日本語を学ぶ。
- ・4年前に日本への留学を決意し、将来日本語教師として母国台湾にいる日本語学習者の手助けをするのが夢



<講師の趙 佳琳 さん>

講演内容

- ・自己紹介
- ・日本語を学ぶきっかけは、日本のアニメを見て日本語の発音がきれいと思った。また、台湾は漢字表記だが、日本には、平仮名やカタカナの文字があり、かわいいと思った。

台湾について

- ・台湾の位置（地図）
- ・面積は九州と同じくらい ・人口は九州の倍に近い ・共通語は中国語

台湾と日本の関係

- ・日本の植民地であった。
 - 基礎建設してくれてありがとう
 - 日本は親しみのある国
- ・日本語学習者数は、世界で第7位
- ・助け合う友

かつて、台湾は日本の植民地であった。植民地だったことに関しては、いろいろな考え方があと思うが、私は、統治の時代に日本が基礎建設してくれたことについて感謝の気持ちを持っている。日本と台湾は、コロナのことや東日本大震災の時のことを考えても助け合う友だと思う。

留学生の生活

- ・地元人の私と留学生の私
- ・「非常識の中で常識人になる」
- ・「おしゃべりと友だちづくりが好き」
でも日本人のやり方が分からない
- ・できていたことができなくなる
- ・観察して理解してそして真似る

留学生の生活

- ・社会化=世界を広げる
- ・絶対正しいことと絶対間違っていること
- ・友だちから学ぶ

例えば、ちくわは日本では生で食べるが、台湾では生で食べない。

留学生の生活

- ・ある国の言語を使いこなせるには文化の知識が必要不可欠
- ・思ったこと=口に出したこと
- ・「考えておきます」
- ・「今度の休みにどこか行かない？」

外国人が間違っって受け取りやすい言葉に「考えておきます」がある。例えば「今度の休みか?考えておくよ」と言った場合、日本の皆さんはどうしますか?そんな場合、日本人は行かないが、外国人は本当に考えてくれると思って、ずっと待ってしまう。(沈黙の了解)

留学生の生活

- ・はっきり言うことに慣れている外国人
- ・「行かない」
- ・台湾人はマイペース
- ・協調性がある=流されやすい・個性がない?

台湾と日本の見方・考え方は違うが、どっちもどっちでいいのではないかな。

留学生の生活

- ・相手の意図を読み取る
- ・台湾人の思い付き発言
- ・「暑いね」

日本のあいまいな言い方は拒否と考えた方がいい。そのままの言葉通りに読み取るのではなく相手が何のために言っているのか、話す時には自分のことだけでなく相手のことも考えるようになった。

留学生の生活

- ・留学生の冗談
- ・本当に疲れた時は

本当に疲れた時は日本語で話せなくなる。脳内のスイッチングがうまくいかなくなる。日本人の親友もできたが、結局、最後は台湾の友だちに頼ってしまう。

留学生の群れ

- ・「相手の話をちゃんと聞く」もできない
- ・「郷に入れば郷に従え」ー 留学生の二つのフェイス
「不打不相識」=「殴り合ってから初めて友だちになる
留学生同士なら自分の文化に従う

相手の話をちゃんと聞くことは当たり前なのだが、外国語(日本語)が聞き取れないことがよくある。何度も聞き返すと相手を不愉快な気持ちにさせてしまうし、分かったつもりで聞き流すと怒られてしまう。こうして挫折感を覚える。また、日本には「郷に入れば郷に従え」という言葉があり台湾にも同じような言葉があるが、台湾人は日本人と違って本音を出し合っつてぶつかり合っつて仲を深める。こうしたいろいろな違いから日本社会向けの顔が生まれる。留学生同士だと素の自分にもどる。

留学生の群れ

- ・日本語がへたくそでも大丈夫
- ・「元気を出してください」→「現金を出してください」
- ・マルシヨク→マルシヨック
- ・ふくろ? おふくろ?

こんな言い間違いはよくある。お弁当屋さんでアルバイトをしている時、ふくろのことを丁寧に言おうと思ひ、おふくろと言ってしまった。

節約

- ・台湾の給与はざっくり日本の2分の1から3分の1
=台湾の給料で日本の出費を賄うには2倍以上働く
- ・奨学金、バイト、仕送り



1か月に必要な経費...
私の場合 (略)
節約して節約してぎりぎりで生活している。

人間関係

- ・学校の先生とほかの留学生
- ・人間関係が狭い分、家族のような深い関係を築き上げる
- ・自分ができなくても誰かが助けてくれる→
2・3年住んでいて日本語が上達しない人も

アルバイトは、勉強のさまたげにならないようにしている。

日本をどう見てどう思ったのか

- ・町がきれいで人が優しくて、安心・安全な社会を皆でつくっている豊かなところ
- ・「日本の文化」と聞かれたら?

日本をどう見てどう思ったのか

- ・「私の国」
- ・よそにないと知らなければ独自の文化であると気づかない
- ・相手を知ることが自分を知ることになる

初めの頃は自分の国、台湾の紹介といっても特に浮かばなかった。何が台湾独自の文化なのかがわからなかった。今は、日々の暮らしの中で見つけることができる。つまり、**相手の国の文化を知ることが自分の文化を知ることにもなる。**

(例えば)マンゴー ！

- ・(台湾では)100円で1個 台湾のコンビニで1時間働いたら4個買える。
- ・マンゴーだけでなくメロン・ライチなども安くおいしい。
- ・でも刺身は(日本に)完敗

台湾は、果物が多くて安いことに気がついた。台湾は、フルーツ王国と呼ばれている。でも、刺身は専門店に行かないと食べられないし、お店で売っていてもとても高い。刺身は、日本に完敗である。

カルチャーショック

- ・日本のバス 座ってから発車 停車してから立つ
- ・台湾のバス いえーい！GOGOGO！！！！

(スピード感があってお客さんが乗ってからすぐ発車、降りる時も早めにドアの前に立たないといけない・・・そうしないと怒られる)

私のカルチャーショックはバス。日本は、町全体が安心安全を重視している。台湾のバスは効率重視。台湾・・・ざっくりでいいから早く仕事を片付けたいという感じ。日本・・・時間をかけてもいいからちゃんと仕事がしたいという感じ。どちらがいいか悪いかではなく、どちらが自分の生活スタイルにむいているかどうかという話

文化に優劣はあるか

- ・優劣=上か下か
- ・差異=違うということ
- ・適性=自分に向いているかどうか

文化においては優劣とかはないと思う。そこにあるのは違うという事実と自分に向いているかどうかということである。

国連「人種差別撤廃条約」

なぜ違うのかが理解できない時、人は差別するようになる。

- ・人種差別とは、「人種・皮膚の色、世系または民族的若しくは種族的出身に基づくあらゆる区別・排除・制限又は優先であって、政治的、経済的、社会的及び基本的自由を認識し享受し又は行使することを妨げ又は害する目的又は効果を有するもの」と、定義づけられている。

日本は、この条約に参加していて、これに基づいていろいろな施策が検討されている。

外国人が苦手？

- ・日本人が何を考えているかわからない
- ・本音を出さない日本人⇔ぶつかり合う台湾人
- ・年を聞く韓国人
- ・日本人もそうなのでは？

日本人はなかなか本音を出さないの
で、日本人が苦手だと思うことがあ
った。韓国人は、年令をととても気にす
るが、相手の年を聞くことで相手とど
う接していくかがわかるという。日本
人も私のように外国人が苦手ではない
かと思う。

壁

- ・「分かったから苦手じゃなくなった」→「違ったとしても理解しよう」
- ・壁との向き合い方 壁をガラス窓にする
- ・統合するのではなく、自分と同じ世界に置く

文化と文化の間には壁が存在する。自分が日本人になったのではないので私にとっての壁の両側は今もそのままである。日本で4年間暮らしていくうちにその壁の向き合い方が分かってきた。分かっていくうちに、また、知ろうとしていくうちに壁が透明なガラス窓になった。

向こうが見えるならそこに壁があってもいい。言葉の壁、文化の壁、お金の壁など今までと違う景色であってもそれを楽しむことができたらそれでいい。異文化交流とか異文化理解というのは2つの違う文化を統合するのではなく、それを自分と同じ世界に置くことが大事。それが別の世界のものではなくて当たり前存在する景色だと理解すれば怖くなくなる。

外国人の特別扱い

- ・交換留学での出来事 地震外交 日台友好
- ・台湾人は好かれる
- ・では差別はないのか？

・交換留学は、7年前、四国の大学だった。日本人は、外国人に対して特別に優しくしたりする。交換留学生の時は、いい面での特別扱いを受けた。「日台友好」という言葉も日本人から聞いた。台湾人ということだけで好かれるのは悪い気はしないが、日本人は、外国人への差別はしないといいきれんのだろうか。日本人が書いた「韓国・韓国人の品性」という本を本屋で見つけた。韓国人がこれを見たらどう思うだろうか。けっこうショックな内容である。

ユーモアで明るい先輩(外国人)

- ・一年短期交換
- ・事故で休学しその後日本語学科に
- ・「自分はいつ死ぬかわからないだから悔いのない人生がいい」
- ・「日本人は苦手だ」
- ・「自分の国に帰れ」
- ・「国の裏切り者」

先輩は、「日本人は苦手だ」と言った。初めは日本人と仲良くなりたい気持ちで部活に入ったが、その部活の日本人学生から「自分の国に帰れ」と言われ、日本人との接し方が分からなくなったという。また、彼の妹も自分の国で日本語を勉強していたら「国の裏切り者」と言われたという。過去の出来事と結び付けてそう言うってしまうことはたまにある。しかし、人をカテゴリー化して判断するのはよくないことである。

カテゴリー化

- ・人をカテゴリー化するのは加害者だけではない
- ・「私が外国人だから」
- ・外国人はちょっと特徴が極端な個人

たった一人の「自分の国に帰れ」が先輩にとっては、すべての日本人が怖い存在となった。被害者も自分の身を守るために人をカテゴリー化する。「日本人は怖い」と。また、留学生の中には、「私が外国人だから」という理由で、問題を片付ける人がある。就職がうまくいかないと「私が外国人だから」。単位がとれないと「私が外国人だから」と。でも、それは本当か?外国人といってもちょっと特徴が極端な個人と考えた方が良い。

最後

- ・人はそれぞれ違う
- ・尊重 助け合う
- ・外国人と共生する社会へ
- ・「共に生きる一人の個人」

人はそれぞれ違う。文化によって国によって違いは出てくる。それでも社会がちゃんと成り立っているのは私たちがお互いのことを尊重し、お互いのことを理解し、お互いを必要としているからである。日本は少子化や労働力不足の問題から外国人を取り入れている。例えば、技能実習生や留学生30万人計画などがあるが、日本は、これからもっと外国人と共生する社会になっていくと思う。その中で、日本で暮らし日本を愛する私たちを外国人として見るだけでなく、「共に生きる一人の個人」として見ていただけると嬉しい。